



## サービス クラス

次の各項を参照してください。

- サービス クラスの検索 (P.2-1)
- サービス クラスの新規作成 (P.2-2)
- サービス クラスの編集 (P.2-9)
- サービス クラスのメンバシップ (P.2-15)

### サービス クラスの検索

表 2-1 [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページ

フィールド	説明
[検索の対象を制限 (Limit Search To)]	(スタンドアロン構成の場合のみ) 検索結果の表示を絞り込むための基準を選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• [すべて (All)] : 所属する Cisco Unity Connection ロケーションにかかわらず、検索結果をすべて表示します。</li><li>• [ロケーション (Location)] : 特定の Connection ロケーションに所属する結果だけを表示します。このオプションを選択する場合は、[名前 (Where Name Is)] リストでロケーションの名前を選択します。</li></ul>
[選択項目の削除 (Delete Selected)]	オブジェクトを削除するには、オブジェクトの表示名の左側にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。複数のオブジェクトを同時に削除できます。
[表示名 (Display Name)]	(表示のみ) オブジェクトの名前。このオブジェクト固有のページに移動するには、[表示名 (Display Name)] をクリックします。

## サービスクラスの新規作成

表 2-2 [サービスクラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ

フィールド	説明
[表示名 (Display Name)]	オブジェクトの識別に役立つ名前を入力します。
[録音名 (Recorded Name)] : [音声名の録音を許可する (Allow Recording of Voice Name)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Unity Connection の電話通話または Cisco Unity Assistant を使用して音声名を録音することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザは、初回登録時に各自の名前を録音するよう求められます。</p> <p>このチェックボックスがオンになっている場合でも、デフォルトでは、ユーザは名前を録音しないまま Connection の登録プロセスを完了できます。初回登録時に名前の録音を必須にするかどうかについては、[システム設定 (System Settings)] &gt; [詳細設定 (Advanced)] &gt; [カンバセーション (Conversation)] ページにある [ユーザによる登録時の名前の録音を必須にする (Require Users to Record Names at Enrollment)] 設定を有効にすることで変更できます。</p> <p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが自分の名前を録音できないようにし (たとえば、組織のすべての名前とグリーティングを1人の声で録音する場合)、このユーザが初回登録時に名前の録音を要求されないようにする場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオンになっています。</p>
[録音名 (Recorded Name)] : [最大長 (Maximum Length)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザの名前の録音を Cisco Unity Connection が何秒後に停止するかを入力します。範囲は 1 ~ 100 秒です。</p> <p>デフォルト設定 : 30 秒。</p>
[ディレクトリにリストされるかどうかの選択をユーザに許可する (Allow Users to Choose to Be Listed in the Directory)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、ディレクトリにリストされるかどうかを選択することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>宛先検索サービスは、ユーザや身元不明発信者がユーザに連絡したりメッセージを残したりするために使用する、音声による登録リストです。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[グリーティング (Greetings)] : [最大長 (Maximum Length)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに許可するグリーティングの録音時間を入力します。範囲は 1 ~ 1,200 秒です。</p> <p>デフォルト設定 : 90 秒。</p>

表 2-2 [サービスクラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ (続き)




フィールド	説明
[IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに、IMAP クライアントを使用してボイスメッセージにアクセスするためのライセンスを付与するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにする場合は、次のいずれかのオプションも選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[メッセージ本文へのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Message Bodies)] : ユーザはボイスメール全体にアクセスできます。</li> <li>[プライベートメッセージ以外のメッセージ本文へのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Message Bodies Except on Private Messages)] : ユーザは、メッセージにプライベートのマークが付けられていない限り、ボイスメール全体にアクセスできます。プライベートメッセージの場合は、メッセージのヘッダーにだけアクセスできます。</li> <li>[メッセージヘッダーのみへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Message Headers Only)] : ユーザは、メッセージのヘッダーにだけアクセスできます。</li> </ul> <p>ここで選択した内容にかかわらず、ユーザは Cisco Unity Connection の電話通話および Cisco Unity Inbox (使用できる場合) を使用することで、メッセージの全体にアクセスできます。</p> <p> (注) 暗号化されているメッセージの本文に、IMAP クライアントからアクセスすることはできません。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[Cisco Unity Inbox の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Cisco Unity Inbox)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Personal Communications Assistant で Cisco Unity Inbox にアクセスすること、およびボイスメッセージの RSS フィードにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)]	<p>[サードパーティのメッセージストア内の電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Email in Third-Party Message Stores)] オプションおよび [音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)] オプションを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[サードパーティのメッセージストア内の電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Email in Third-Party Message Stores)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Exchange サーバの電子メールにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このオプションを有効にするには、[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] チェックボックスをあらかじめオンにしておく必要があります。</p> <p>このオプションでは、Exchange サーバ上のメッセージストアにアクセスするよう外部サービスを設定することが要件になります。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが音声認識機能にアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このオプションを有効にするには、[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] チェックボックスをあらかじめオンにしておく必要があります。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-2 [サービスクラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ (続き)


フィールド	説明
[パーソナル着信転送ルールの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Personal Call Transfer Rules)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザがパーソナルコールルーティングにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) ライセンスの設定によっては、パーソナル着信転送ルールを使用できない場合があります。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[Cisco Unity Assistantの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Cisco Unity Assistant)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Personal Communications Assistant で Cisco Unity Assistant にアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが音声認識インターフェイスにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。音声認識インターフェイスを使用すると、ユーザは、電話機のキーパッドを使用するのではなく、コマンドを音声で入力することで、Cisco Unity Connection の電話通話と対話できます。</p>
[Unified Personal Communicator を使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Use Unified Client to Access Voice Mail)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Unified Personal Communicator インターフェイスにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。Cisco Unified Personal Communicator は、音声、ビデオ、ドキュメント共有、ボイスメールの再生、およびディレクトリを単一のインターフェイスに統合した Web ベースのクライアントアプリケーションです。</p> <p>Cisco Unity Connection のボイスメッセージにアクセスするには、このチェックボックスをオンにし、さらに Cisco Unified Personal Communicator も設定する必要があります。詳細については、『<i>Installation Guide for Cisco Unified Personal Communicator</i>』を参照してください。このマニュアルは、<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html</a> から入手可能です。</p>
[管理者が定義した代行内線番号の表示をユーザに許可する (Allow Users to View Administrator-Defined Alternate Extensions)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、管理者によって指定された代行内線番号を表示することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[自分が定義した代行内線番号の管理をユーザに許可する (Allow Users to Manage Their User-Defined Alternate Extensions)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Unity Assistant で自身の代行内線番号のセットを指定することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションを選択すると、ユーザは、すでに定義済みの代行内線番号に加え、最大 5 個の代行内線番号を定義できます。</p> <p>ユーザは、複数の携帯電話、自宅の電話、およびその他の電話機について、代行内線番号を指定するよう Cisco Unity Connection 管理者に要請することがあります。管理者は、ユーザが各自の代行内線番号を指定できるように許可することで、扱う要請の数を削減できます。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-2 [サービス クラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ (続き)


フィールド	説明
[メッセージ長 (Message Length)]: [最大長 (Maximum Length)]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザに許可するメッセージの録音時間。1 ~ 3,600 秒の値を入力します。</p> <p>このオプションを有効にすると、ユーザに対して、最大長に達する前に警告音が再生されます。</p> <p> (注) 身元不明発信者がユーザに残すメッセージについて録音時間の上限を設定するには、ユーザの [メッセージ設定の編集 (Edit Message Settings)] ページを使用します。ユーザが録音するブロードキャスト メッセージについて録音時間の上限を設定するには (録音を許可する場合)、[システム設定 (System Settings)] &gt; [詳細設定 (Advanced)] &gt; [カンバセーション (Conversations)] ページを使用します。</p> <p>デフォルト設定: 300 秒 (5分)。</p>
[システム同報リストへのメッセージ送信をユーザに許可する (Allow Users to Send Messages to System Distribution Lists)]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザがシステム同報リストにメッセージを送信することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定: チェックボックスはオンになっています。</p>
[削除済みアイテムフォルダに保存せずにメッセージを削除する (Delete Messages Without Saving to Deleted Items Folder)]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザがメッセージを削除したときに、Cisco Unity Connection がそれらのメッセージを完全に削除するようにするには、このチェックボックスをオンにします。代わりに、削除されたメッセージを Connection で削除済みアイテム フォルダに移動し、ユーザが後で取得できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>デフォルト設定: チェックボックスはオフになっています。</p>
[ユーザはコールを発信することによって他のユーザからのメッセージに回答できる (Allow Users to Use Live Reply to Other Users)]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザに対し、Live Reply 機能を使用して他の Cisco Unity Connection ユーザにコールを返すことを許可するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンになっている場合、ユーザは、別のユーザからのメッセージを聞いた後に 4-4 を押すと、メッセージを残したユーザに Connection で電話をかけることができます (オプション カンバセーション 1 を使用するユーザは、8-8 を押すと Live Reply を使用できます。音声認識のユーザは、「return call」と音声で入力できます)。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、ユーザは、発信者のタイプにかかわらず Live Reply を使用して折り返し電話をかけることができません。ユーザの電話通話では、Live Reply は無効になります。</p> <p>デフォルト設定: チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-2 [サービスクラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ (続き)

フィールド	説明
[ユーザはコールを発信することによって不明な発信者からのメッセージに返信できる (Allow Users to Use Live Reply to Unidentified Callers)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Live Reply 機能を使用して身元不明発信者 (外部発信者または Cisco Unity Connection に転送されたが発信元内線番号によって識別できないユーザ) にコールを返すことを許可するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンになっている場合、ユーザは、Connection ユーザとして識別されていない発信者からのメッセージを聞いた後に 4-4 を押すことができます (オプションカンパセション 1 を使用するユーザは、8-8 を押すと Live Reply を使用できます。音声認識のユーザは、「return call」と音声で入力できます)。</p> <p> (注) このオプションを有効にするには、[ユーザはコールを発信することによって他のユーザからのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Other Users by Calling Them)] チェックボックスをあらかじめオンにしておく必要があります。</p> <p>身元不明発信者への Live Reply を開始する場合、Connection は発信者の ID をユーザの転送規制テーブルと照合します。番号が許可されている場合、Connection は電話システムへのリリース転送を実行して、折り返しの電話をかけます。デフォルトでは、Connection は発信者 ID の形式を整形しないことに注意してください。[システム設定 (System Settings)] &gt; [詳細設定 (Advanced)] &gt; [カンパセション (Conversation)] ページで、[識別できない発信者への Live Reply のダイヤルプレフィックス (Dial Prefix for Live Reply to Unidentified Callers)] 設定および [Live Reply ダイヤルプレフィックスの先頭に最低限必要な数字の数 (Minimum Number of Digits Required for Prepending Live Reply Dial Prefix)] 設定を設定すると、すべての番号の先頭に十分な長さのトランクアクセスコードを付加したり、電話システムで番号の処理に必要となる可能性のある追加の情報を提供したりできます。適切なダイヤル文字列を生成するために必要となるその他の整形は、すべて電話システムで実行する必要があります。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、ユーザは Live Reply を使用して身元不明発信者に折り返しの電話をかけることができません。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[セキュアメッセージングを必須にする (Require Secure Messaging)]	<p>このサービスクラスのメンバーから送信されたメッセージを Cisco Unity Connection が処理する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [常に (Always)]：メッセージに対して、常に安全のマークを付けます。</li> <li>• [設定しない (Never)]：メッセージに安全のマークを付けません。</li> <li>• [選択する (Ask)]：ユーザが特殊発信オプションの電話メニューで適切なキーを押して、メッセージに安全のマークを付けた場合に限り、メッセージに安全のマークを付けます。</li> <li>• [プライベート (Private)]：ユーザがメッセージにプライベートのマークを付けた場合に限り、メッセージに安全のマークを付けます。</li> </ul> <p>[選択する (Ask)] オプションを除いて、特殊発信オプションの電話メニューのプロンプトでは、安全なメッセージのオプションについて説明されないことに注意してください。[選択する (Ask)] オプションを有効にした場合は、ユーザに「このメッセージを緊急に設定するには 1、受信確認に設定するには 2、プライベートに設定するには 3、暗号化を設定するには 5 を押してください。(To mark this urgent, press 1. For return receipt, press 2. To mark this private, press 3. To mark it secure, press 5.)」というプロンプトが再生されます。</p> <p>ここで選択されたオプションにかかわらず、どのユーザも、メッセージの送信時にメッセージにプライベートのマークを付けることができます。</p> <p>デフォルト設定：[プライベート (Private)]。</p>

表 2-2 [サービス クラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ (続き)

フィールド	説明
[ユーザあたりの最大リスト数 (1-99) (Maximum Lists Per User (1-99))]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザが使用できるプライベート同報リストの最大数を指定するため、1～99の数値を入力します。ユーザは、各自のプライベート同報リストを電話および Cisco Unity Assistant で管理できます。</p> <p>Cisco Unity Connection カンバセーションおよび Cisco Unity Assistant では、この設定値を使用して、ユーザのリスト数が上限に達したことを特定します。ただし、ユーザが所有するリストの数については、各アプリケーションが独自に計算することを考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザが電話を使用してメンバーを追加し、新しいリストを作成しようとする場合、メンバーのいるプライベート同報リストの数を <b>Connection</b> カンバセーションがカウントし、その合計数をこの設定値と比較して、ユーザのリスト数が上限に達しているかどうかを特定します。メンバーのいないリスト (空のリスト) は、ユーザが所有するリストの合計数に含まれません。これは、これらのリストが名前の録音またはテキスト名を持っている場合でも同様です。</li> <li>ユーザが Cisco Unity Assistant を使用して新しいリストを作成しようとする場合、名前の録音、テキスト名、またはメンバーを持っているリストの数を Cisco Unity Assistant がカウントし、その合計数をこの設定値と比較して、ユーザのリストの数が上限に達しているかどうかを特定します。メンバーのいないリストであっても、名前の録音またはテキスト名を持っている場合は合計数に含まれます。</li> </ul> <p>つまり、15 個のリストを所有できるサービス クラスにユーザが所属していて、メンバーのいるプライベート同報リストが 12 個、名前の録音はあるがメンバーのいないリストが 2 つある場合、ユーザは、Cisco Unity Assistant を使用するよりも電話を使用するほうが、上限に達するまでに作成できるリストの数が多くなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Connection</b> カンバセーションを使用する場合、ユーザは、2 つの空のリストにメンバーを追加して新しいリストを 1 つ作成した時点、または新しいリストを 3 つ作成した時点でリスト数の上限に達します。新しいリストを 3 つ作成して上限に達した場合、ユーザは、リストを 2 つ削除するまで 2 つの空のリストにメンバーを追加できません。</li> <li>ユーザが Cisco Unity Assistant を使用している場合は、新しいリストを 1 つ作成した時点でリスト数の上限に達します。リスト数の上限に達していても、ユーザは 2 つの空のリストにメンバーを追加できます。</li> </ul> <p>デフォルト設定：リスト 25 個。</p>
[リストあたりの最大メンバー数 (1-999) (Maximum Members Per List (1-999))]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザが Cisco Unity Connection カンバセーションまたは Cisco Unity Assistant を使用している場合に、それらのユーザがプライベート同報リストに追加できる最大メンバー数を指定するため、1～999の数値を入力します。</p> <p>リストにボイス メッセージを送信できるのは、そのリストを所有しているユーザに限られます。</p> <p>デフォルト設定：メンバー 99 名。</p>
[通話のスクリーニング オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Screening Options)]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Unity Assistant を使用して自身の通話スクリーニング オプションを変更することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このオプションは、特に必要がない場合は許可しないことをお勧めします。通話のスクリーニングを実行すると、発信者を内線番号に転送するために必要な時間が長くなります。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[通話の保留オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Holding Options)]	<p>このサービス クラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Unity Assistant を使用して自身の通話保留オプションを変更することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-2 [サービスクラスの新規作成 (New Class of Service)] ページ (続き)

フィールド	説明
[発信 (Outcalling)]	このサービスクラスに割り当てられているユーザがメッセージの配信設定に入力できる電話番号を制限するために、リストから規制テーブルを選択します。Media Master で、録音および再生デバイスとして電話機が選択されている場合は、選択するテーブルによって、Cisco Unity Connection がダイヤルするユーザの内線番号も規制されます
[転送 (Transfers)]	このサービスクラスに割り当てられているユーザが通話転送設定に入力できる電話番号を制限するために、リストから規制テーブルを選択します。
[ファックス (Fax)]	このサービスクラスに割り当てられているユーザがファックスのダイヤル設定に入力できる電話番号を制限するために、リストから規制テーブルを選択します。

### 関連情報

- 『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービスクラスの追加、修正、削除」の章の「サービスクラスの追加」の項



## サービスクラスの編集

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ

フィールド	説明
[表示名 (Display Name)]	オブジェクトの識別に役立つ名前を入力します。
[録音名 (Recorded Name)] : [音声名の録音を許可する (Allow Recording of Voice Name)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Unity Connection の電話通話または Cisco Unity Assistant を使用して音声名を録音することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザは、初回登録時に各自の名前を録音するよう求められます。</p> <p>このチェックボックスがオンになっている場合でも、デフォルトでは、ユーザは名前を録音しないまま Connection の登録プロセスを完了できます。初回登録時に名前の録音を必須にするかどうかについては、[システム設定 (System Settings)] &gt; [詳細設定 (Advanced)] &gt; [カンバセーション (Conversation)] ページにある [ユーザによる登録時の名前の録音を必須にする (Require Users to Record Names at Enrollment)] 設定を有効にすることで変更できます。</p> <p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが自分の名前を録音できないようにし (たとえば、組織のすべての名前とグリーティングを1人の声で録音する場合)、このユーザが初回登録時に名前の録音を要求されないようにする場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオンになっています。</p>
[録音名 (Recorded Name)] : [最大長 (Maximum Length)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザの名前の録音を Cisco Unity Connection が何秒後に停止するかを入力します。範囲は 1 ~ 100 秒です。</p> <p>デフォルト設定 : 30 秒。</p>
[ディレクトリにリストされるかどうかの選択をユーザに許可する (Allow Users to Choose to Be Listed in the Directory)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、ディレクトリにリストされるかどうかを選択することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>宛先検索サービスは、ユーザや身元不明発信者がユーザに連絡したりメッセージを残したりするために使用する、音声による登録リストです。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[グリーティング (Greetings)] : [最大長 (Maximum Length)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに許可するグリーティングの録音時間を入力します。範囲は 1 ~ 1,200 秒です。</p> <p>デフォルト設定 : 90 秒。</p>

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ (続き)




フィールド	説明
[IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに、IMAP クライアントを使用してボイスメッセージにアクセスするためのライセンスを付与するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにする場合は、次のいずれかのオプションも選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[メッセージ本文へのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Message Bodies)] : ユーザはボイスメール全体にアクセスできます。</li> <li>[プライベートメッセージ以外のメッセージ本文へのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Message Bodies Except on Private Messages)] : ユーザは、メッセージにプライベートのマークが付けられていない限り、ボイスメール全体にアクセスできます。プライベートメッセージの場合は、メッセージのヘッダーにだけアクセスできます。</li> <li>[メッセージヘッダーのみへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Message Headers Only)] : ユーザは、メッセージのヘッダーにだけアクセスできます。</li> </ul> <p>ここで選択した内容にかかわらず、ユーザは Cisco Unity Connection の電話通話および Cisco Unity Inbox (使用できる場合) を使用することで、メッセージの全体にアクセスできます。</p> <p> (注) 暗号化されているメッセージの本文に、IMAP クライアントからアクセスすることはできません。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[Cisco Unity Inbox の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Cisco Unity Inbox)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Personal Communications Assistant で Cisco Unity Inbox にアクセスすること、およびボイスメッセージの RSS フィードにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)]	<p>[サードパーティのメッセージストア内の電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Email in Third-Party Message Stores)] オプションおよび [音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)] オプションを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[サードパーティのメッセージストア内の電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Email in Third-Party Message Stores)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Exchange サーバの電子メールにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このオプションを有効にするには、[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] チェックボックスをあらかじめオンにしておく必要があります。</p> <p>このオプションでは、Exchange サーバ上のメッセージストアにアクセスするよう外部サービスを設定することが要件になります。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>
[音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが音声認識にアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このオプションを有効にするには、[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] チェックボックスをあらかじめオンにしておく必要があります。</p> <p>デフォルト設定 : チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ (続き)

フィールド	説明
[パーソナル着信転送ルールの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Personal Call Transfer Rules)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザがパーソナルコールルーティングにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) ライセンスの設定によっては、パーソナル着信転送ルールを使用できない場合があります。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[Cisco Unity Assistant の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Cisco Unity Assistant)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Personal Communications Assistant で Cisco Unity Assistant にアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[Unified Personal Communicator を使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Use Unified Client to Access Voice Mail)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Unified Personal Communicator インターフェイスにアクセスすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。Cisco Unified Personal Communicator は、音声、ビデオ、ドキュメント共有、ボイスメールの再生、およびディレクトリを単一のインターフェイスに統合した Web ベースのクライアントアプリケーションです。</p> <p>Cisco Unity Connection のボイスメッセージにアクセスするには、このチェックボックスをオンにし、さらに Cisco Unified Personal Communicator も設定する必要があります。詳細については、『<i>Installation Guide for Cisco Unified Personal Communicator</i>』を参照してください。このマニュアルは、<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html</a> から入手可能です。</p>
[管理者が定義した代行内線番号の表示をユーザに許可する (Allow Users to View Administrator-Defined Alternate Extensions)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、管理者によって指定された代行内線番号を表示することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[自分が定義した代行内線番号の管理をユーザに許可する (Allow Users to Manage Their User-Defined Alternate Extensions)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Unity Assistant で自身の代行内線番号のセットを指定することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションを選択すると、ユーザは、すでに定義済みの代行内線番号に加え、最大 5 個の代行内線番号を定義できます。</p> <p>ユーザは、複数の携帯電話、自宅の電話、およびその他の電話機について、代行内線番号を指定するよう Cisco Unity Connection 管理者に要請することがあります。管理者は、ユーザが各自の代行内線番号を指定できるように許可することで、扱う要請の数を削減できます。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ (続き)


フィールド	説明
[メッセージ長 (Message Length)]: [最大長 (Maximum Length)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに許可するメッセージの録音時間。1 ~ 3,600 秒の値を入力します。</p> <p>このオプションを有効にすると、ユーザに対して、最大長に達する前に警告音が再生されます。</p> <p> (注) 身元不明発信者がユーザに残すメッセージについて録音時間の上限を設定するには、ユーザの [メッセージ設定の編集 (Edit Message Settings)] ページを使用します。ユーザが録音するブロードキャストメッセージについて録音時間の上限を設定するには (録音を許可する場合)、[システム設定 (System Settings)] &gt; [詳細設定 (Advanced)] &gt; [カンバセーション (Conversations)] ページを使用します。</p> <p>デフォルト設定: 300 秒 (5分)。</p>
[システム同報リストへのメッセージ送信をユーザに許可する (Allow Users to Send Messages to System Distribution Lists)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザがシステム同報リストにメッセージを送信することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定: チェックボックスはオンになっています。</p>
[削除済みアイテムフォルダに保存せずにメッセージを削除する (Delete Messages Without Saving to Deleted Items Folder)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザがメッセージを削除したときに、Cisco Unity Connection がそれらのメッセージを完全に削除するようにするには、このチェックボックスをオンにします。代わりに、削除されたメッセージを Connection で削除済みアイテムフォルダに移動し、ユーザが後で取得できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>デフォルト設定: チェックボックスはオフになっています。</p>
[ユーザはコールを発信することによって他のユーザからのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Other Users by Calling Them)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Live Reply 機能を使用して他の Cisco Unity Connection ユーザにコールを返すことを許可するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンになっている場合、ユーザは、別のユーザからのメッセージを聞いた後に 4-4 を押すと、メッセージを残したユーザに Connection で電話をかけることができます (オプション カンバセーション 1 を使用するユーザは、8-8 を押すと Live Reply を使用できます。音声認識のユーザは、「return call」と音声で入力できます)。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、ユーザは、発信者のタイプにかかわらず Live Reply を使用して折り返し電話をかけることができません。ユーザの電話通話では、Live Reply は無効になります。</p> <p>デフォルト設定: チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ (続き)


フィールド	説明
[ユーザはコールを発信することによって不明な発信者からのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Unidentified Callers by Calling Them)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Live Reply 機能を使用して身元不明発信者 (外部発信者または Cisco Unity Connection に転送されたが発信元内線番号によって識別できないユーザ) にコールを返すことを許可するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンになっている場合、ユーザは、Connection ユーザとして識別されていない発信者からのメッセージを聞いた後に 4-4 を押すことができます (オプションカンパセーション 1 を使用するユーザは、8-8 を押すと Live Reply を使用できます。音声認識のユーザは、「return call」と音声で入力できます)。</p> <p> (注) このオプションを有効にするには、[ユーザはコールを発信することによって他のユーザからのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Other Users by Calling Them)] チェックボックスをあらかじめオンにしておく必要があります。</p> <p>身元不明発信者への Live Reply を開始する場合、Connection は発信者の ID をユーザの転送規制テーブルと照合します。番号が許可されている場合、Connection は電話システムへのリリース転送を実行して、折り返しの電話をかけます。デフォルトでは、Connection は発信者 ID の形式を整形しないことに注意してください。[システム設定 (System Settings)] &gt; [詳細設定 (Advanced)] &gt; [カンパセーション (Conversation)] ページで、[識別できない発信者への Live Reply のダイヤルプレフィックス (Dial Prefix for Live Reply to Unidentified Callers)] 設定および [Live Reply ダイヤルプレフィックスの先頭に最低限必要な数字の数 (Minimum Number of Digits Required for Prepending Live Reply Dial Prefix)] 設定を設定すると、すべての番号の先頭に十分な長さのトランクアクセスコードを付加したり、電話システムで番号の処理に必要となる可能性のある追加の情報を提供したりできます。適切なダイヤル文字列を生成するために必要となるその他の整形は、すべて電話システムで実行する必要があります。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、ユーザは Live Reply を使用して身元不明発信者に折り返しの電話をかけることができません。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[セキュアメッセージングを必須にする (Require Secure Messaging)]	<p>このサービスクラスのメンバーから送信されたメッセージを Cisco Unity Connection が処理する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [常に (Always)]：メッセージに対して、常に安全のマークを付けます。</li> <li>• [設定しない (Never)]：メッセージに安全のマークを付けません。</li> <li>• [選択する (Ask)]：ユーザが特殊発信オプションの電話メニューで適切なキーを押して、メッセージに安全のマークを付けた場合に限り、メッセージに安全のマークを付けます。</li> <li>• [プライベート (Private)]：ユーザがメッセージにプライベートのマークを付けた場合に限り、メッセージに安全のマークを付けます。</li> </ul> <p>[選択する (Ask)] オプションを除いて、特殊発信オプションの電話メニューのプロンプトでは、安全なメッセージのオプションについて説明されないことに注意してください。[選択する (Ask)] オプションを有効にした場合は、ユーザに「このメッセージを緊急に設定するには 1、受信確認に設定するには 2、プライベートに設定するには 3、暗号化を設定するには 5 を押してください。(To mark this urgent, press 1. For return receipt, press 2. To mark this private, press 3. To mark it secure, press 5.)」というプロンプトが再生されます。</p> <p>ここで選択されたオプションにかかわらず、どのユーザも、メッセージの送信時にメッセージにプライベートのマークを付けることができます。</p> <p>デフォルト設定：[プライベート (Private)]。</p>

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ (続き)

フィールド	説明
[ユーザあたりの最大リスト数 (1-99) (Maximum Lists Per User (1-99))]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが使用できるプライベート同報リストの最大数を指定するため、1～99の数値を入力します。ユーザは、各自のプライベート同報リストを電話および Cisco Unity Assistant で管理できます。</p> <p>Cisco Unity Connection カンバセーションおよび Cisco Unity Assistant では、この設定値を使用して、ユーザのリスト数が上限に達したことを特定します。ただし、ユーザが所有するリストの数については、各アプリケーションが独自に計算することを考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザが電話を使用してメンバーを追加し、新しいリストを作成しようとする場合、メンバーのいるプライベート同報リストの数を <b>Connection</b> カンバセーションがカウントし、その合計数をこの設定値と比較して、ユーザのリスト数が上限に達しているかどうかを特定します。メンバーのいないリスト (空のリスト) は、ユーザが所有するリストの合計数に含まれません。これは、これらのリストが名前の録音またはテキスト名を持っている場合でも同様です。</li> <li>ユーザが Cisco Unity Assistant を使用して新しいリストを作成しようとする場合、名前の録音、テキスト名、またはメンバーを持っているリストの数を Cisco Unity Assistant がカウントし、その合計数をこの設定値と比較して、ユーザのリストの数が上限に達しているかどうかを特定します。メンバーのいないリストであっても、名前の録音またはテキスト名を持っている場合は合計数に含まれます。</li> </ul> <p>つまり、15 個のリストを所有できるサービスクラスにユーザが所属していて、メンバーのいるプライベート同報リストが 12 個、名前の録音はあるがメンバーのいないリストが 2 つある場合、ユーザは、Cisco Unity Assistant を使用するよりも電話を使用するほうが、上限に達するまでに作成できるリストの数が多くなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Connection</b> カンバセーションを使用する場合、ユーザは、2 つの空のリストにメンバーを追加して新しいリストを 1 つ作成した時点、または新しいリストを 3 つ作成した時点でリスト数の上限に達します。新しいリストを 3 つ作成して上限に達した場合、ユーザは、リストを 2 つ削除するまで 2 つの空のリストにメンバーを追加できません。</li> <li>ユーザが Cisco Unity Assistant を使用している場合は、新しいリストを 1 つ作成した時点でリスト数の上限に達します。リスト数の上限に達していても、ユーザは 2 つの空のリストにメンバーを追加できます。</li> </ul> <p>デフォルト設定：リスト 25 個。</p>
[リストあたりの最大メンバー数 (1-999) (Maximum Members Per List (1-999))]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザが Cisco Unity Connection カンバセーションまたは Cisco Unity Assistant を使用している場合に、それらのユーザがプライベート同報リストに追加できる最大メンバー数を指定するため、1～999の数値を入力します。</p> <p>リストにボイスメッセージを送信できるのは、そのリストを所有しているユーザに限られます。</p> <p>デフォルト設定：メンバー 99 名。</p>
[通話のスクリーニングオプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Screening Options)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Unity Assistant を使用して自身の通話スクリーニングオプションを変更することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このオプションは、特に必要がない場合は許可しないことをお勧めします。通話のスクリーニングを実行すると、発信者を内線番号に転送するために必要な時間が長くなります。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>
[通話の保留オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Holding Options)]	<p>このサービスクラスに割り当てられているユーザに対し、Cisco Unity Assistant を使用して自身の通話保留オプションを変更することを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定：チェックボックスはオフになっています。</p>

表 2-3 [サービスクラスの編集 (Edit Class of Service)] ページ (続き)

フィールド	説明
[発信 (Outcalling)]	このサービスクラスに割り当てられているユーザがメッセージの配信設定に入力できる電話番号を制限するために、リストから規制テーブルを選択します。Media Master で、録音および再生デバイスとして電話機が選択されている場合は、選択するテーブルによって、Cisco Unity Connection がダイヤルするユーザの内線番号も規制されます。
[転送 (Transfers)]	このサービスクラスに割り当てられているユーザが通話転送設定に入力できる電話番号を制限するために、リストから規制テーブルを選択します。
[ファックス (Fax)]	このサービスクラスに割り当てられているユーザがファックスのダイヤル設定に入力できる電話番号を制限するために、リストから規制テーブルを選択します。

#### 関連情報

- 『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービスクラスの追加、修正、削除」の章の「サービスクラスの設定の修正」の項

## サービスクラスのメンバシップ

表 2-4 [サービスクラスのメンバシップ (Class of Service Membership)] ページ

フィールド	説明
[選択したユーザの移動 (Move Selected User)]	選択したユーザを選択した COS に割り当て直すには、[選択したユーザの移動 (Move Selected Users)] をクリックします。
[エイリアス (Alias)]	(表示のみ) ユーザ、同報リスト、システム連絡先、個人のグループ、またはシステム内のその他のオブジェクトの一意テキスト名。
[名 (First Name)]	(表示のみ) ユーザまたは連絡先の名。
[姓 (Last Name)]	(表示のみ) ユーザまたは連絡先の姓。
[表示名 (Display Name)]	(表示のみ) オブジェクトの名前。
[内線番号 (Extension)]	(表示のみ) 電話システムがオブジェクトへの接続に使用する内線番号。

#### 関連情報

- 『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービスクラスの追加、修正、削除」の章の「サービスクラスへのユーザの割り当ておよび再割り当て」の項

